

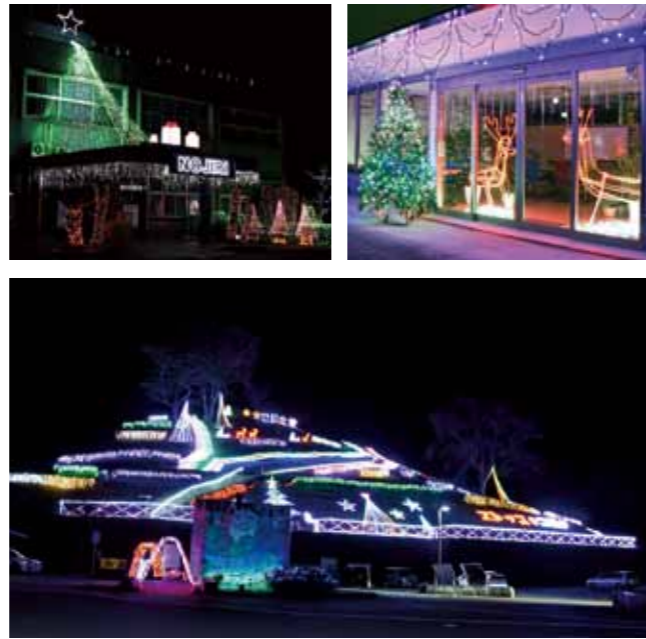
今年もイルミネーションが点灯

11月23日、「こばやし冬まつり2020」として、小林駅周辺のイルミネーションが点灯しました。作成した同実行委員会と小林秀峰高校自動車部など関係者のもと点灯式が行われました。また、11月29日からは野尻地区のイルミネーションも点灯。10年以上にわたり、地域住民の手で作られる灯りが国道268号線沿いを明るく照らしました。



【期間・点灯時間】

小林（駅南公園）1月8日（金曜）まで、17時30分～21時
野尻（国道268号線沿い）1月9日（土曜）まで17時30分～23時



法人会女性部が市長と意見を交わす

11月25日、小林法人会女性部会（ひらばるまつこ 平原松子 会長）が宮原市長と意見交換を行いました。市長が市の財政状況や重点事業の説明を行った後、観光・防災・子育て支援などの分野について、地域産業に関わる女性目線としての意見を市長と交わしました。



初開催！日本語と生活情報の授業

11月22日、市内在住の外国人市民を対象とした日本語プレ教室を開催しました。地域活動や交流促進を目的としたモデル事業。市内在住の日本語教師が、市内で働く技能実習生に語学だけでなく、「小林市」で生活するうえで必要な情報などを授業しました。



子どもたちの健全な成長を願って

11月26日、小林ライオンズクラブ（うめもと 梅本孝司 会長）が市内全ての小・中学校にほうきなどの環境美化用品を寄贈しました。昭和53年から続けている取り組み。梅本会長は「子どもたちが環境をきれいにし、心が育つよう役立てて欲しい」と話しました。



新店舗開店を記念し車いすを寄贈

11月24日、高鍋信用金庫（いたがきまもる 板垣衛 理事長）が新しい支店の竣工記念として、市に車いす5台を寄贈しました。寄贈に際し板垣理事長は「これからも地域の皆さまの生活改善のお手伝いをしていきたい」と述べました。車いすは市役所各庁舎に配置し、活用されます。



小林西高校生が3年間の成果を恩師の先生や保護者に披露

12月2日、小林西高校で調理科3年生による学習成果発表会および試食会が開催されました。毎年夏に開催している「高校生三ツ星レストラン」がコロナ禍の影響で中止になった代わりに、学習の成果を披露する場として計画。日本料理や西洋料理などを振る舞い、中学時代の恩師や保護者に3年間磨いた腕前を披露しました。



調理科3年の高橋美鈴さんは、「一つひとつに心を込めました。3年間学んだ成果をみなさんに味わってもらえてうれしいです」と話していました

ICTを活用した新しい授業方法を学ぶ

11月18日、小林市教育フォーラムが開催されました。感染症対策として、初めてオンラインで開催。市内教職員、市議会議員、市教育委員が参加し、タブレットPCを活用した効果的な授業方法などについて専門家の講義などを受講しました。



小学生対象のオープンスクール

11月21日、小林高校で小学生とその保護者を対象としたオープンスクール（体験入学）が行われました。早い段階で地元高校の特徴を知ってもらいたいと企画。小学生だけでなく、保護者も高校生と座談会を行うなど、高校への理解を深めました。



いただいた寄付は、東京一極集中を是正するための地方での人材育成の取り組みを加速させるための活動に使われます

企業版ふるさと納税制度を活用し株式会社内田洋行が寄付

11月24日、情報システムやオフィス構築を手がける株式会社内田洋行（おおくぼのぼる 大久保昇 代表取締役社長）が市に100万円を寄付しました。同社顧問のほったかすふ 堀田一美氏が一般社団法人熱中学園の代表理事を務めていることが縁で寄付に至ったもので、いただいた寄付金は宮崎こばやし熱中小学校の活動の支援に充てられます。

令和2年秋の叙勲・褒章

11月3日、秋の叙勲・褒章が発表され、ふちがみ 淵上貞継さんが旭日双光章を受章しました。淵上さんは野尻町議会と小林市議会で議員を16年務め、町と市の発展に貢献。また、メロン栽培に早期に取り組み、地域農業の振興に貢献したことが認められての受章です。



認知症の人を地域で支えるために

11月15日、山中営農研修館ほかで細野3区認知症見守り声かけ訓練が行われました。地域住民をはじめ、まちづくり協議会、消防団員など74人が参加。一人で歩く認知症高齢者役に優しく声をかけ、地域で支えることの必要性などを学びました。



事業収益を市民生活の向上へ グリーンシティこばやし(株)が寄付

12月15日、電気の小売り販売を行うグリーンシティこばやし株式会社（前田喜輝代表取締役）が市に1200万円を寄付しました。同社には小林市も出資しており、事業で得られた収益は市民生活の向上につながる公益的な事業に使うこととなっています。今回いただいた寄付は、コミュニティバスの更新費用に充てられる予定です。



前田代表は、「コロナ禍のなかでも計画どおりに事業を進めることができた。今後も市民に身近な電力の会社として飛躍していきたい」と話していました

地域の安全のためにカーブミラー寄贈

12月11日、小林交通安全協会堤分会（小川泉会長）が市にカーブミラー1基を寄贈しました。このカーブミラー



は小林交通安全協会堤分会への地域住民の協力金の一部を充てたもので、地域の安全確保のため、今後要望があった場所に設置される予定です。

観光と組み合わせた働き方を提案

12月16日、小林まちづくり(株)が(株)ANA総合研究所と共同で行う、新たな滞在型観光事業の第1回実行委員会が開催されました。生駒高原を活用したワーケーション（仕事と休暇を両立させる新しい働き方）事業について、関係者が事業内容を協議しました。



第2期 小林市における情報化に関する連携協定



第1期協定では、City Wi-Fiの構築や光ファイバー網整備などを推進。第2期協定では、情報基盤の更なる充実と効果的な利活用を目指します

ICTを活用した先進技術の普及を推進 NTT西日本・西部電気工業(株)と連携

12月14日、市はNTT西日本宮崎支店（峯畑秀哉支店長）と西部電気工業株式会社（熊本敏彦代表取締役社長）との間に、「第2期小林市における情報化に関する連携協定」を締結しました。今後、第2期でなんと小林総合戦略の実現のため、ICTの活用や地域活性化施策実現に向けた先進技術・サービスの推進に向けて連携していきます。

認定10周年の霧島ジオを見直す

11月27日、霧島ジオパーク講演会が文化会館で開催されました。伊豆半島ジオパーク専任研究員の



新名阿津子さんを講師に迎え、認定から10年がたつ霧島ジオパークのあり方や資源の活用、外から見た霧島ジオパークの魅力について講演がありました。

市道沿いを丁寧に清掃

12月5日、NPO法人赤とんぼ（山口義輝理事長）が環境美化活動を行いました。同団体が年2回ほど実施しているもので、この日は同職員35人が参加。国道から清掃工場までの市道沿い約1キロの草刈りやごみ拾いなど環境整備を行いました。

